



サンホーム便り



～北海道のひまわり畑～

梅雨が明け、蒸し暑い日が続いています
 が、皆様がいかお過ごしでしょうか？サン
 ホームでは夏の大型行事を前に職員一同、
 準備に取り掛かっております。暑くなりま
 すが、夏バテせずに乗りきりましょう。今
 回は利用者様からの寄稿を中心に、春に行
 った行事をご報告いたします。

「日々の過ごし方について」

園長 豊野 秀一

梅雨前線が日本各地で大雨を降らせ、日常生活に多くの混乱と問題が発生していますが、当ホームで生活する利用者さんには直接的な影響はなく安全で安心な生活を送って戴いてくれるものと思います。

ただし、日本独特の高湿度の毎日には、多くの方が閉口しているのではなからしょうか。ホームでは、この時期、どうしても外出が制限されてしまいますので、建物の中で楽しめるものを皆さんとごきょうごしたいものです。

今年度に入ってからこれまで、「ご希望の方々の外出（一泊旅行等）」を計画的に、更には機会あることに進めてまいりましたが、健康と交流を深める為の外出は今後も実施していきます。さて、各種サークル、同好会の多くが建物内

で行っていますので、是非ここで参加の方向で一考していただければ、ホーム内の活性化に繋がるのではないのでしょうか。

七月は七夕様、皆様の願いは、日々健康で、仲良く、幸せな生活を送れることを短冊にこめていらっしやいますので、気張らず自然体で過ごしていきたいと思います。

話は変わりますが、7月11日(日)は参議院選挙が行われます。消費税並びに普天間基地の問題は重要です。真に日本の将来を任せられる党はどこか、熟考の上、投票所に向かいたいものです。



一泊旅行～ホテルからの眺め～

4月5月に新しく2名の方が入居されました。自己紹介を書いていただきました。

新入居者のご紹介

「あこちゃん」

主人の仕事のお供して新潟、群馬、東京と歩きました。

そして、サンホームにお世話になることになりました。

初めての様なところに来ましたが、とても温かくてうれしく思っています。よろしくお願い致します。

「新入居挨拶」

作田 久美子

四月二十四日サンホームに入りました。二月たちました。同じ東村山本町に一人で暮らしておりました。

毎年正月に家族みんなで集っていますが、なぜかもお母さん一人暮らしをやめて下さい、元気なことはわかるといって、何か起きたときは必ずりてほしいです。妹にばかりにお世話になることを伝えましたら、親孝行でなく子孝行よ。

はなれてすんでいる子供、孫達、安心していらしてほしいね。

長くサンホームで調理員として勤務されていた、藤田さんが7月いっぱいまで退職されます。代わって齊藤さんが入職されました。

退職の挨拶

調理員 藤田 イツミ

七月末日まで退職する事になりました。

サンホームに勤務して十二年あつた期間に過ぎました。

初めは、小平給食の配給が主な仕事でした。配食の件数も四十件以上ありました。三人で週一回の配達でした。利用者の名刺を覚えるため、それぞれの特徴をメモして覚えた事を思い出します。

施設内では、納涼祭、バザーなど楽しい行事が沢山あり、利用者との交流もありました。

職員旅行は、楽しかった思い出の一つです。働く仲間に恵まれて働きやすかったです。

長い間、お世話になりました。有りがたうございました。

新任の挨拶

調理員 齊藤 淳一

はじめまして、7月から調理員として一緒に働かせていただいています。

何の経験も無く初めてする事はかりで、何度も同じ事を聞きながら、今はみなさんに負担をかけている毎日です。

先輩方みなさん、丁寧に指導して下さいまして感謝しています。

早く戦力になれるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

レクリエーションのひとつ



～東村山菖蒲まつり～

東京都の派遣ヘルパー事業で5月～7月までの3ヶ月間、2名の方がサンホームに派遣されてきました。サンホームでの仕事を終えて感想を聞かせていただきました。

派遣ヘルパー挨拶

田邊 加奈子

サンホームの皆様こんにちは。私は東京都から派遣されて来ていました、田邊加奈子と申します。7月14日で契約満了という形になり、サンホームにお別れました。サンホームでお世話になった1ヶ月半の期間は本当にあっという間に過ぎてしまいました。私は他の老人ホームでもお世話になったことがありますが、その中でも一番楽しいと思える老人ホームでした。レクリエーションや同好会・イベントなどが充実していて、皆様お元気な方が多く、私もイベントなど参加させて頂きましたが本当に楽しかったです。短い間でしたが、あまりお話しをすることが出来なかった方もいましたが、笑顔で話し掛けてくれたりするところ、とても嬉しかったです。もっと皆様と楽しい時間を共有したかったです。期間が決まってお

りますので、残念でなりません。短い間でしたが、大変お世話になりました。皆様のご健康を心より願っております。本当にありがとうございました。

奥村 弥生

私は、昭和39年3月3日に、東京都足立区で生まれました。現在は新所沢で、24歳で旅行会社で働いている長女と、18歳でホンダの専門学校に通う長男と3人暮らしです。

ヘルパーの資格を取ったのは、平成15年の夏だったと思います。子供の手も少し離れたのと、両親もだんだん年を重ねていくので介護に対する知識を少しでも欲しいと考えての受講でした。実際に介護の世界に入ったのは、それから2年位たった頃でした。どのような施設がどのようなか？全くわからないまま、介護老人保健施設にパートとして入職致しました。介護の世界は思っていた以上に大変な仕事ですが、これからも体が動けるうちは、続けていきたいと思っています。サンホームは、とても短い期間でしたが、とても楽しかったです。皆様が健康で、サンホームにて、有意義な生活が送れます事を心より願っております。

今回より職員のパージを作らせていただきました。仕事では見せない一面をちらっとお見せします。

「ちょっとがんばったよ」

生活相談員 生天目 尊

前回のサンホーム便りに引き続き2回目の投稿となります。

通勤の時に読書をしておりまして、ポリニュームや内容にもよりますが一冊につき一週間ほどで読み終えています。

試しに今読んでいる文庫本の字数を数えてみました。一頁に64字、30～40ページとして拾九萬弐千字～弐拾伍萬六千字（192,000字～256,000字）、原稿用紙にして48枚～64枚相当……となりました。

「サンホーム便りの原稿を書いて」といわれて毎回苦労しておりますが、小説家の文章力にはあらためて畏敬の念に打たれてしまいます。これだけ膨大な文章も一週間で読み終えてしまうのですから、読み手は気楽なものだと思います。同じ文章でも人によって捉え方、感じ方が違うので、作者の意図する事が通じているかとの問いはナンセンスかもしれません。

ちよっと話が飛んでしまいますが、今流行りのB級グルメのラーメンから高級フレンチま

での料理人、落書きから名の知れた芸術家の作品まで、すべては食べる側、みる側、受ける側次第でその評価が変わります。大学時代に友人と連れ立って先輩の家に遊びに行った時の事、先輩の御父上の某洋酒を味見させて頂いた時に、最初は何も言わなかった友人が「これは〇〇万するらしい。」と聞いた途端「やっぱ違っねーうまいー」と絶賛していました。

“うまい”とその友人が感じた事は事実なのでうまかったのでしょうか。ただある程度の先入観というスパイスも味覚に影響があるようです。逆に「うまいよー」と言われたラーメンを食べてみたら期待が大きすぎてがっかり、という事もあるようです……

小説やラーメン、芸術はそれぞれ自分勝手に感じればよいことです。そこに面白さがあります。

長々と書き連ねてきましたが小説を発端にして人に伝える事、そのまますけ入れる事の難しさをぶと感じていきます。本質を見るには背景や経緯も含めて多方面から検証できる器の広さが必要のようです。



畑作り

「園庭整備&さつまいも畑」

(6月14日、17日)

上野 浩志

14日はあいにくの雨で、職員3人で草取りとさつまいも畑を作りました。まずは草取りをして園庭周辺の草取りです。

腰を痛めないように注意しながら、伸びていた草を取り大分綺麗に整備されたと思います。また新たな花壇のスペースも確保しましたので、利用者さんの「ミネケーション」の場になればと思います。

そして問題の畑作りです。3人とも初体験であり感覚のみで作業をしましたが、とにかく畑もどきが出来上がりました。

50本購入したさつまいもの苗を植えました。成長するかまでは考えていません。ただ美味しく成長する事を祈るばかりです。ぜひ畑を見て下さい。また水を撒いてもらっても構いません。皆さんで美味しいおもいを育てましょう。ちゃんと育て、食べたいものになりましたらやさいもにして皆さんと一緒に味見をしたいと考えています。

楽しみ〜♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

駐車場脇のサンホームの畑です。だいぶ葉が伸びてきました。時々手入れをしてくれている方々、ありがとうございます。



『夏号特集』

利用者様からの寄稿

「思ひ出」

松井 貞子

五月二十日、最後の同窓会が行はれるとの由友と二人で松江に行きました。昔は一晚汽車に乗りましたが、飛行機は、“上がりました”“下がりました”で、早くホテルに着く事が出来ました。

翌二十一日は、上天気、時間より早く皆さん集まりましたが、お会いしても、“貴女だれでしたかね”の連発です。自分のおばあちゃんになったのは忘れ、友の名前が思い浮かびませぬ。

校歌を歌い、お話を始めたら、もう昔の自分に返って、幼い頃の、忘れていた事を云われると、そっだったかと苦笑し乍ら、次から次のおしゃべりに時間の過ぎるのを忘れました。

学校の時は、テスト、テストでテストがなければ、いー学校だと思っていました。友と、老年になり会う事が出来たのは、テストのおかげかなと思ったり致しております。

夜、夕食に、町へでしたが、その静かで、淋しい事、昔は、もっと、夜も人通りがあったのに…と思いました。これも時の流れなのか？

ー お墓の掃除、法要と用事を終え、ホテルに帰り、ホッと眼下の穴道湖を眺めますと、又昔の事が、走馬灯の様になります。たのしい事、かなしい事、年齢を重ねた実感です。

でも、多くの思い出が出来、幹事さん始め皆様に感謝しております。

元気に当ホームに居る幸を感じます。しばらくは平凡に毎日を過ごしたく思っております。よろしくお願い致します。

～星野富弘誌画集～

渡辺 良子

久しく本から離れてしまっていた。そのせいもあるだろう、脳が潤いや弾力を失ってひらひらびたような、砂漠の砂地のような心もとなさを感じる。特に記憶領野のダメージが大きいのか？

今回寄稿を、と言われたが情動面の動きゼロである。今までも感じていた不安や焦りが余計つもの。

そんな中、辿り着いたのがこの本である。事故で首から下の自由を失い、口に筆をくわえて書いたこの人の絵と詩、特に詩は何と無邪気に

心のうちを表しているのだろう。

又その絵に込められたおもいを知る時、こちらもいつしか深いおもい、感動に包まれる。

今回もホームにもあるこの本を手にし、行き詰まった気持ちや索漠としたおもいは和らげられ、心を洗われたような気持ちになれた。

皆様も一服の清涼剤として、ぜひこの本を活用なさいませんか、諸手を広げて待っていてくれますよ。

この人のシクラメンに添えた一句、『うどんがすき、そばがすき、ラーメンもすき、めん類はみんなすき、そんなわけでシクラメンもすき』



この本は3階テイルームの本棚にありますので、1回自由に覧下さい。

「二つの別れ」

早川 晶明

年明け早々の睦月に、二つの思わぬ別れに遭遇することになった。お一人は竹田浜子姉（大正二年生れの当年九十七歳）。もうお一人は中山幹兄（享年八十四歳）。

両氏共に小生がホームで出会い教えや助言を受け尊敬していた兄弟です。老いてからの出会いは、近々の別れの覚悟はあるものの、いざいその場となると、一抹の寂寥感も禁じえない。

竹田姉、世間には、こんな立派な女性がやっぱり居るんだとびっくり、外見は物静かではあるが、内はなかなかどうして熱いものを持ち、嫌みを感じさせない。ユーモアあるトークで人と接する態度は、何々、人としてできる事ではない。無いものを持ち合わせ、教養に裏打ちされた、出自と育ちの良さが品にあらわれ、そこはかとない振舞い、流石が滲み出ていました。

ご自分の人生の中での数々のエピソードの中の幾つかを聞かせて頂けたのはラッキー。味い深いものでした。その一つは、新婚早々、ご主人から、給料袋の封が切られ、中味は半分しか入っておらず、『これでやれ（生活）』と言われた時は頭にきた。半分は帽子（ボルサリーノ）に化けていた。小生はつい『凄い』『帽子の似合うハンサムな、ご主人だったんですね。』

『高給取りで』と叫んでしまった。この話、男として凄い勇氣が入り自信家でないと出来ない事だと思いませんか。

幼ないお子さんを過去に「く」されていたようです。小生と歳が同じくらいで、小生に重ね合わせて居られた向きが伺えました。直接には口にされませんが周りから耳にした事です。勿論、本人は嘸にも口にされず、関西人特有の明るさで、親子漫才の掛合いの調子で、小生とは会話をされる、でも内には秘めたる悲運をかんえ、でもそれは内に包みこんで、何々、真似の出来る技ではありません。暗い顔付きを拝見したことはない。眉間の皺寄せを見た事がない。

『うな圭』。サイクリング道沿いの萩山にある、うなぎ屋さん。閑静な小振りな美味しい店、彼女に教えて頂きました。暑い夏のさかり、ここで食べるうなぎは絶品です。サービスタイルは二時半迄、定休日は火曜日です。まもなく、暑い丑の日がやってきます。店に立ち寄る時は竹田姉を偲ぶ時です。

長寿を祈っています。

扱て、もう一つの急な別れとなった中山幹兄はどでかいスケールの大きな器量を持ち合わせた大兄、弟の如く教え助言、叱正を数々頂いた先達です。

あれもこれも有り過ぎて次回の書き記す機会があれば混乱している頭の整理を付けた上

で、是非、書かせて頂きたい大きな人物だった方です。今回はパス。

「七々への思い」

大野 正行

七々への思いは絶えて久しい。故郷での幼き日の遠い思い出。子供が小さかった頃の懐かしい思い出。三度目が思い掛けずもサンホームで迎える日。

青春を戦争と、敗戦の焼土と化した混乱の中を過ごして来た我々の世代。願うは今の平和が何時迄も続きますように。元気で生涯が送れますように。そんな願いは誰も同じだろうと思う。そんな思いを趣味の水墨で短冊に託してみました。

七々や、笹に思いを、託す膏

正稜



行事報告

「お花見」

実施日4月5日は生憎の雨となり、予定を変更して、1時から車3台に分乗し多摩湖周辺から東大和方面の桜並木を見物するドライブをし、2時に東村山生活実習所に到着致しました。小一時間程、同実習所の食堂にて、シユース・ビール等で喉を潤し、3時15分サンホームに戻って参りました。

利用者様16名、職員5名の総勢21名の参加でした。

雨天の為、南台公園の名桜は観ることができませんでしたが、東大和市湖畔や桜ヶ丘周辺の見事な桜並木を（車内からではありますが）観賞することができました。

いつもと違った内容の「お花見」となりましたが、普段余り行かれない場所を廻れて良かったというお声も頂戴できました。

（介護員 野口 義治）



～お花見のひとコマ～

雨のため会場は東村山生活実習所です。



調理員特製のお花見弁当

「日帰りの旅行」

5月19日、利用者8名、職員5名で日帰りの旅行に行ってきました。今年は趣向を凝まして、大相撲夏場所観戦ツアーです。途中で現在建設中のスカイツリーも間近で見ることができました。当日は雨のため青空にそびえるスカイツリーを見ることはできませんでしたが、すでに東京タワーの高さを超えたスカイツリーはとも迫力がありました。「完成したら見に来たい。」という声が多くの方から聞かれました。

両国国技館に着いたのは午後3時半、ちょうど土俵入りの時間でした。国技館の中に足を一歩踏み入れた時の国技館の雰囲気は圧倒されるものがありました。私たちの席は2階席でしたが、力士がぶつかり合う音、行事の「はっけよい、のこった」の声がはっきりと聞こえました。そして何より力士の気迫は生だからこそ味わえたものだと思います。好きな力士が出てきたときには掛け声をかけたり、望遠鏡でながめたり、ラジオを聴いたりと思い思いに観戦を楽しみました。

最近では土俵の外の話題で騒がれていますが、生で見ると改めて江戸時代から続く相撲の歴史を感じ、日本の国技として受け継がれてほしいと思います。

（介護員 中元 好美）



両国国技館にて

「河口湖への一泊旅行」

去る7月7日、8日の一泊二日の旅行に救護担当として同行した。運良く天気予報が外れてくれたため二日間とも雨にあたることもなく、丁度良い気温と日差しのおかげで河口湖周辺の旅を楽しむことができた。

一日目は河口湖オルゴールの森で昼食を摂った。避暑地である河口湖周辺には美術館や資料館、ハーブ館などが散在し、森と湖に囲まれて景観も美しく、その一角にあるヨーロッパ

調のオルゴールの森という館のレストランで牛ヒシの蕩けるようなステーキをいただいた。もちろんフォークとナイフと白い木綿のナプキンがテーブルに用意されており、はじめはスプーンとフランスパンであった。フランスパンの周りはぱりっとして中はふわっとした食感で噛めば噛むほど味わいがあり非常に美味であったと思うのだが、皆さんはどのように感じられたのだろうか。また、バラの咲く庭園のテラスでは、老若男女のカップルや親子連れが白いテーブルでお茶やランチを楽しんでいた。そこには、日ごろを忘れさせてくれるような、ゆったりとした時間が流れていた。

昼食のあとはオルゴール館の中でピアノ演奏を聞き、その後はハーブ館を見学してから河口湖富士ビューホテルに到着した。箱根の富士屋ホテルと同系列であるホテルは、3万坪という広大な庭園をもち、富士山を目の前に眺望できるといふ素晴らしい条件下のリゾートホテルであった。庭園には花の盛りは終えているが豊かに葉の茂った枝垂桜の木(約三〇〇本)が見事な庭園を形造っていた。桜の満開のころにもまた、富士山をバックに素晴らしい日本の風景が堪能できる場所に違いないと予想した。

夕食前に、数名の利用者さんと一緒に屋上のラウンジに昇って暫く雄大な富士山を見られた。やっぱり、富士は日本の山であることを

それぞれに感じていたのでしょうか。「何時までも、こうして富士山を見ていたいわね」という声が聞かれた。

翌日は、お猿の里で、洋服をきた可愛いチヨロ松君にお会いし、あまりの可愛さにサンホームに連れて帰りたい気持ちであった。

今年も、一泊旅行が終わったのだが、来年も再来年もこの楽しい旅行に参加できるように祈りながら、サンホームでの生活の中で足腰を鍛えていきたいと思います。

(看護師 市川 光代)



富士ビューホテルにて



松口 卓郎

～猿回し劇場～

「草薙まつりの花火」

6月9、15日にレクリエーションとして東村山北山公園の草薙まつりに行ってきました。毎年行きたいと思っていたながら、タイミングが合わず念願かなったの草薙まつりでした。

2日間とも大気にめぐまれ、一面に広がる草薙を満喫することができました。草薙の花は白紫だけでなく、微妙なグリーン・シヨンの色もかかったものまで様々です。周囲は緑に囲まれ、緑と草薙の対比はとても美しいです。園内は舗装されており、車椅子やシルバーカーを押してまわることも可能です。せつかく近くにあり、ぜひ皆様一度足を運んでみて下さい。

草薙を見て一句、石塚セン様に詠んでいただ

きました。

『年若い 幸せいばい 草薙園』

草薙まつりに留まらず、近隣にある名所を訪れてみたいと思います。

(介護員 中元 好美)

「七夕」

7月の七夕に向けて、6月下旬よりレクリエーションの時間を利用して、利用者の皆様と一緒に飾りを作りました。利用者の中には、それよりも前から飾りを作っておられる方もいらっしゃいました。

七夕飾りといえば「笹」ですが、今年も近隣の高校より分けていただきました。分けていただいた笹に、皆で一緒に飾り付けとそれぞれの願いを短冊に書き込みました。

7月7日に雨が降ると織姫と彦彦(彦星)は会うことが出来ないとされています。どこかで見た統計では、東京の晴れる確立は約26%となっていました。

今年の七夕は、あじこくの曇り空になってしまいました。



(介護員 伊藤 華恵)

「お楽しみ食事会」

6月29日に恒例の『お楽しみ食事会』が行われました。

今回は昨年のバイキングを教訓とした、リベンジバイキング!!!

昨年同様、屋台4台と今年の新兵器、カウンターテーブルを使用し、よりホテルのバイキングに近い状態に仕上げました。

今回のバイキングのこだわりは屋台・カウンターテーブルともう一つ!!!

全てが手作りということでした。なかなか調理員の手が回らず、既製品の物を少しだけ使用し、行っているのが今までのバイキングの現状でしたが、今回は調理員念願の全て手作りに挑戦してみました。

メインや副菜はもちろん主食のピザやまゝり寿司、デザートのカキ餅など全部調理員の手作りでした。

利用者の皆様からは『おいしい』『と言つ声をたくさんいただきました。またおかわりもたくさんしていました。

利用者の皆様の声を聞いた調理員の笑顔がとても印象的でした。利用者の皆様の満足はもちろんなこと、作業する職員も楽しんで仕事をすることが良い結果に繋がったのだと思います。

(栄養士 大塚 千穂)



当日のメニューの一部です。
すべて手作りで



食事会風景

行事予定

サマーコンサート 8月7日(土)

ひかり苑との共催で行います。今年で3回目を迎えるサマーコンサートは富士見町の夏の恒例行事として定着しつつあります。出演はコンフロント水餃子、フンネ法演奏、山野バンド、中国音楽・雑技の4組です。プログラム・模擬店をさらにパワーアップさせ、皆様のご来園をお待ちしております。

敬老会 9月20日(月)

昨年に引き続き、保証人の皆様を招待して敬老会を行います。8月末までに保証人の皆様には招待状と出欠確認の葉書を郵送いたします。お忙しいとは思いますが、ぜひ出席ください。

次号は秋に発行いたします。夏の行事の様子を中心に伝えていますので、ぜひお楽しみください。
また俳句・詩・文章・写真などの寄稿は随時、受け付けております。担当の中元、野口までお声かけください。

編集後記

梅雨真っ只中でありまして、例年に無く雨量が多く、各地で深刻な被害も報じられており今後の気象情報から目が離せない状況です。南アフリカではサッカーのワールドカップが開催され、我が「岡田ジャパン」もベスト16進出と大活躍でした。参議院選挙では与党が敗れるという結果で、早くも政界再編成の動きが…。たった一ヶ月間でも話題満載でありました。いや〜世の中の動きは本当に早いです…。
(Y.N記)

日団会△町 財護 28年7月28日 発行
見富士市 恩援 28年7月28日 発行
東村山 法人 28年7月28日 発行
都東 同 28年7月28日 発行
社京 同 28年7月28日 発行
平成 会 28年7月28日 発行
行社 会 28年7月28日 発行
東京 2-7-40
Tel 042-391-3274
Fax 042-391-3366
E-mail sunhome-sodan@douen.jp

サンホームだよりに掲載されている文章・個人名、写真等は個人情報保護の観点から全て御本人又は保証人様の承諾を得て掲載しております。